

「小学校外国語活動」における教員の指導力向上に関する研究

－教員の指導力向上に向けた校内研修プログラムの策定－

教 務 部 部長 門脇 千里

企 画 調 査 課 課長 浅井 憲一 主任指導主事 芦谷 直登

義務教育研修課 課長 山田 潔 指導主事 木村 明宏 指導主事 早瀬 幸二

高校教育研修課 課長 北川 真一郎 主任指導主事 高橋 信之

情報教育研修課 課長 河合 良成 指導主事 三原 智雄

はじめに

平成20年3月に新しい小学校学習指導要領¹⁾（以下、「学習指導要領」という）が告示され、第5学年及び第6学年に「外国語活動」が導入されることとなった。「外国語活動」では、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」ことが目標として掲げられている。また、文部科学省が各小学校に配布している『小学校外国語活動研修ガイドブック』では、「小学校における外国語活動の実施に当たっては、指導者に対する研修がきわめて重要である。小学校の教師である以上、小学校外国語活動の基本理念等を理解するとともに、指導力の向上及び英語運用能力の向上を図り、授業を円滑に運営することが求められる」²⁾と述べられている。このように、児童のコミュニケーション能力の素地を養うためには、小学校教員の「外国語活動」における指導力の向上が必要であり、指導力向上に向けた研修が重要な意味を持つと考える。

そこで、本研究は、教員の指導力を向上させるための方策として校内研修プログラムを提案することを目的とした。

平成21年度は、学校の取組状況や教員の意識についてアンケート調査を行い、その結果に基づいて指導力向上に必要な研修要素を決定した³⁾。

本年度は、その指導力向上に必要な研修要素を反映させた、指導力向上に向けた校内研修プログラム（以下、「校内研修プログラム」という）を作成し、「平成22年度 小学校 外国語活動実践研修講座」（以下、「外国語活動実践研修講座」という）の実施をとおして改善を図った。

1 指導力向上に必要な研修要素 －アンケート調査の結果から－⁴⁾

「校内研修プログラム」の策定にあたり、当所では平成21年に以下の2つの調査を実施した。一つは、「外国語活動」に対する教員の意識と学校の取組状況との関連を調べることを目的とした『『小学校外国語活動』に係るアンケート調査（学校用）』（以下、「調査H21（学校用）」という）である。もう一つは、「外国語活動」に対する小学校教員のとまどいや不安といった意識を調べることを目的とした『『小学校外国語活動』に係るアンケート調査（教員用）』（以下、「調査H21（教員用）」という）である。

「調査H21（教員用）」では、調査対象の教員の52.3%が「外国語活動」の指導全般に対して「不安を感じる」と回答していることがわかった。こうした不安が「外国語活動」を実践していく上で、どのような要素と関連しているのかを分析したところ、以下に示す3点との関連が深いことがわかった。

まず、一つ目は、「学習指導要領」に示されている目標（以下、「目標」という）との関連である。

「調査H21（教員用）」の結果によると、「目標」を「理解していない」と答えた教員は、「理解している」と答えた教員に比べて不安を感じていることが多い傾向がみられた。

特に、「理解していない」と答えた教員は、「目標」の3つの柱の一つである「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」ことに対する指導への不安が大きかった。これは、多くの教員が、音声や表現については、発音のしか

たや文法に関する知識がなければ指導できないのではないかと考えているためであると思われる。しかし、「外国語活動」は、スキルや知識の習得を「目標」とするものではなく、児童のコミュニケーション能力の素地を養うことを「目標」とするものである。こうした「目標」の理解を深めることで、「外国語の音声や基本的な表現」に慣れ親しませる指導への不安は軽減すると考えられる。

二つ目は、活動の進め方との関連である。

「調査H21（教員用）」によると、学級担任として「外国語活動」における具体的な活動が「できない」と答えた教員のうち29.2%の者が、指導全般に「強い不安を感じる」と答えており、「できる」と答えた教員の4.9%に比べて高い割合を示した。また、教員の多くは、「学習指導要領」の具体的な内容に関する「積極的に外国語を聞いたり話したりさせること」や「外国語の音声やリズムなどに慣れ親しませるとともに、日本語との違いを理解させ、言葉の面白さや豊かさに気付かせること」に不安を感じていることがわかった。この不安は、教員の多くが、英語に関する知識や英語の使用について自信が持てないため、外国語を使った活動を進めることに不安を感じているためであると考えられる。

しかし、授業を担当する教員が発音のしかたや文法に関する知識を十分に持っていなかったとしても、活動の取り入れ方や授業の展開などを工夫することで有効な授業は可能となるはずである。そして、そうした工夫のしかたを具体的に知ることによって、発音や文法の知識といった指導上のスキルに対する不安は軽減できると考えられる。

三つ目は、授業の組立てとの関連である。

「調査 H21（教員用）」において指導者の役割に対する不安の程度について調べた結果、教員は、指導計画を立てることや教材や教具を作成したり活用したりするといった授業の組立てに対して強い不安を感じていることがわかった。そこで、児童の実態に応じた教材を授業全体の中にどのように組み込んでいくかといった授業全体の組み立て方がわかれば、具体的に授業の流れをイメージすることができ、その結果、不安が軽減し、児童の興味・関心やコミュニケーションを図ろうとする意欲につながることができると考えた。

また、「調査H21（教員用）」の中で「どのような研修を望むかについて聞いたところ、上記3点に関する希望が上位を占めた。しかし、評価

に関する研修を望む回答は、上記3点の半分程度に留まっていた。授業が有効に実施されたかどうかを確認するためには、授業の評価は欠かせない要素である。

そこで、以上の結果に「調査H21（学校用）」の結果も反映させ、表1に示す4点を、指導力向上に必要な研修要素とした。

表1 「調査 H21」から明らかになった課題と指導力向上に必要な研修要素

「調査H21」から明らかになった課題	指導力向上に必要な研修要素
ア 「目標」を理解していない教員は「外国語活動」の指導に対して不安を感じていることが多い	ア 「目標」の理解
イ 英語に関する知識や英語の使用について自信のない教員は「外国語活動」の指導に不安を感じていることが多い	イ 活動の進め方
ウ 「外国語活動」の授業を組み立てることに不安を感じている教員が多い	ウ 授業の組立て
エ 評価に関する研修を希望する教員の割合が低い	エ 評価

2 教員の指導力向上に向けた研修プログラムの策定

(1) 「校内研修プログラム」の概要

平成22年度は、「調査H21（学校用）」及び「調査H21（教員用）」から明らかになった指導力向上に必要な4点の研修要素をもとに、各学校での「外国語活動」における教員の指導力向上に向けた校内研修に用いるための「校内研修プログラム」の構成を考えた。表2に示すとおり、1つの研修要素に対して2つの研修内容を考えた。「校内研修プログラム」は、すべての内容を一連の流れの中で行うこともできるが、各内容を個別に取り上げて研修できるようにも構成した。

このように、個別の研修プログラムとすることで、「外国語活動」の指導経験のない教員を対象に基本的な内容の研修を行ったり、学校として重点的に取り組みたい内容を取り上げて研修を行ったりする等、各学校の実態に応じた研修の実施が可能になると考えた。

図1は、「校内研修プログラム」の一部である。各研修プログラムには、ねらいや準備物に加え、『英語ノート』に示されているアクティビティの例や研修の展開例を示した。展開例には、進行役の台詞や研修を進める上での留意点を具体的に示しており、校内研修の運営に自信のない教員にも活用しやすい構成とした。なお、「校内研修プログラム」の具体的な内容については、『小学校外国語活動』における教員の指導力向上に向けた校内研修プログラム」として本文末に添付している。

表2 「校内研修プログラム」の構成

研修要素	内容
ア 「目標」の理解	(ア) 「目標」の体験的な理解 (イ) 単元目標の作成をとおした「目標」の理解
イ 活動の進め方	(ア) 『英語ノート』の授業への活用のしかた (イ) ALTとのチーム・ティーチングによるアクティビティの進め方
ウ 授業の組立て	(ア) 授業プランの作成 (イ) 教材の工夫
エ 評価	(ア) 授業における評価の在り方 (イ) 授業評価

「目標」の理解

ねらい

「外国語活動」の目標は、「外国語を通じて言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現能力の素地を養う」こととなっています。この目標を理解し、学習指導要領に示されている目標の理解に向けた研修について説明します。

プログラム1. 「目標」の体験的な理解

（ねらい）

『英語ノート』等に示されているアクティビティを行う際に、「児童にどのような力を身に付けさせるのか」を考えることが重要です。この研修プログラムでは、『英語ノート』の体験をとおして、それぞれの目標がどのような児童の姿につながるのかをイメージしながら学習指導要領に示されている目標の目標の理解を深めます。

（準備物）

- 言語や文化について体験的に理解を深めること
- 学習指導要領（平成20年3月）、『英語ノート1』
- 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること
- 『英語ノート2』、『英語ノート』に示されている絵を拡大したカード
- 『英語ノート2』付属CD、自分の得意なことやできないことを記入できるようにしたワークシート
- 『英語ノート2』p.26に新たに枠を設けたもの（右図参照）
- 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること
- 『英語ノート1』、『英語ノート1』付属CD、『英語ノート』に示されている絵を拡大したカード

（本研修プログラムで使用する『英語ノート』の単元例）

『英語ノート1』 Lesson4「自己紹介をしよう」

『英語ノート2』 Lesson4「できることを紹介しよう」

準備物

アクティビティ例

概略

「目標」の体験的な理解 【展開例】

研修の流れ

留意点

展開例

進行役の台詞

留意点

図1 「校内研修プログラム」

(2) 「校内研修プログラム」の内容

ア 「目標」の理解

(7) 「目標」の体験的な理解

児童のコミュニケーション能力の素地を養うためには、授業で扱うアクティビティが「目標」のどの部分に結び付いているかを意識して授業を行うことが必要である。ここでは、アクティビティをとおして「目標」の理解を深めることをねらいとした。具体的には、「目標」に示されているそれぞ

れの柱がどのようなアクティビティに結び付いているのかをイメージできるように、参加者が児童役となって、『英語ノート』に示されているアクティビティを体験する内容を示した（表3）。また、アクティビティを体験することで、参加者の意識が指導技術に偏ることのないように、最初に「目標」を確認し、アクティビティを体験する際には「目標」の3つの柱に沿って研修を進める流れを示した。

(4) 単元目標の作成をとおした「目標」の理解

「外国語活動」の授業を行う際には、児童に身に付けさせたい力を具体的に考えておくことが必要である。ここでは、単元で育てたい児童の姿をイメージしながら、「目標」の理解を深めることをねらいとして、「目標」に示された言葉と『英語ノート』の内容を照らし合わせながら単元目標を考える内容とした。また、個人で考えるだけでなく、少人数のグループで考え、その後、全体で意見を交流するという研修の進め方を示し、「外国語活動」の指導経験の少ない教員にも対応できるように工夫した。

イ 活動の進め方

(7) 『英語ノート』の授業への活用のしかた

当所の講座等を通じて、「外国語活動」の指導経験の少ない教員は、児童の実態に関係なく『英語ノート指導資料』に示されている内容のとおり授業を進めている傾向があることがわかった。『英語ノート指導資料』は、『英語ノート』とともに文部科学省から配布されている冊子で、1時間毎の授業の展開例や指導者の表現例等、『英語ノート』を活用する際の具体的な事柄が示されている。しかし、『英語ノート指導資料』を参考にする場合でも、児童の興味・関心を高めるためには、児童が考えた内容を取り入れるなど、実態を考慮した授業展開を考えることが必要である。

そこで、このプログラムでは、児童の興味・関心を高めるための『英語ノート』の授業への活用のしかたについて習得を図ることをねらいとした。ここでは、『英語ノート2』 Lesson 5「道案内をしよう」を例に挙げた。教室を町に見立てて道案内をするアクティビティの中で、参加者が児童役となり、『英語ノート』に示されている内容の他に自分たちが考えた店や建物の絵を付け加える内容を示した（表4）。このように、実際に参加者が考えた内容を取り入れながらアクティビティを体験することで、コミュニケーションを図ろうとする意欲が高まることを実感できるようにした。また、より実践に結び付けられるように、参加者が児童役となって体験したことを生かして模擬授業を実施するという内容も示した。しかし、模擬授業を加えることにより、学校によっては1回の校内研修に時間がかかりすぎる場合があることも考えられる。そこで、内容を複数回に分ける研修の進め方も示した。

(4) ALTとのチーム・ティーチングによるアクティビティの進め方

学級担任とALTがそれぞれの役割を分担して授業を展開することにより、児童一人一人に、より細かな指

表3 「『目標』の体験的な理解」に示したアクティビティ例

○言語や文化について体験的に理解を深めること アクティビティ例：英語を聞いてみたり言ってみたりして外来語と英語との違いを感じる。
○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること アクティビティ例：自分ができる内容を付け加えたり、程度を表す表現を取り入れたりしながら、「自分のことが言いたい」「友だちのことが知りたい」と感じられるようなコミュニケーションの場を作る。
○外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること アクティビティ例：リズムに合わせたりゲームをとおしたりしながら単語や文を繰り返すことで、音声に慣れ親しむ。

表4 児童の興味・関心を高めるための活動例

『英語ノート2』 Lesson 5「道案内をしよう」
○児童が考えた内容を取り入れた活動例 『英語ノート』に示されている内容の他に、児童が考えた店や建物の絵を付け加える。
○児童にとって身近な内容を取り入れた活動例 『英語ノート』に示されている地図の代わりに、自分の学校の教室の配置図を用いる。

導をすることができるとともに、指導者が単独ではできなかった活動を組み込むことができる。しかし、当所の講座等の中で「学級担任が英語を話すことに自信がないため、ALTが中心となって授業を進めている」という話が受講者から出た。ここでは、学級担任とALTとのチーム・ティーチングにおけるそれぞれの役割（表5）の理解やアクティビティの進め方につ

表5 「ALTとのチーム・ティーチングによるアクティビティの進め方」に示した学級担任とALTの役割例

【学級担任の役割】

- ・児童全員にコミュニケーションを図る機会をもたせる
- ・ALTの英語に対する児童の理解を助ける
- ・どの児童も参加できるように授業をコントロールする

【ALTの役割】

- ・児童全員にコミュニケーションを図る機会をもたせる
- ・児童に生きた外国語の提供者として、自然な言語の使い方や発音を指導する

いて習得を図ることをねらいとして、参加者が児童役となって進行役とALTとの授業を体験したり、参加者とALTが模擬授業を行ったりする内容を示した。また、参加者が中心となって実施しようとする模擬授業の内容をワークシートに記入し、ワークシートを用いてALTとの打ち合わせが行えるような工夫を取り入れた。さらに、「外国語活動」の指導に自信がない教員が多い場合には、ALT役が積極的に打ち合わせに参加して、一緒に模擬授業の内容を考える進め方も示した。

ウ 授業の組立て

(ア) 授業プランの作成

前述のとおり、「調査H21（教員用）」から「外国語活動」の授業を計画することに不安を感じている教員が多いことが明らかになった。また、「外国語活動」の指導経験の少ない教員は、単元の目標や1時間の目標をあまり意識することなく『英語ノート指導資料』に示されている内容のとおり授業を進めている傾向がみられた。しかし、児童のコミュニケーション能力の素地を養うために、単元ごと、授業ごとに明確な目標を立て、目標を達成するために効率よく授業を展開することが大切である。

ここでは、「学習指導要領」の目標や内容に沿った単元目標や単元内容の設定のしかたや単元の構成のしかたが理解できるように、授業プランの作成をプログラムに取り入れた。また、ワークシートを使って「学習指導要領」の目標や内容から単元目標や単元内容を考える手立てを示した（図2）。さらに、児童の実態に合わせた授業プランを作成できるよう、付箋を用いて学校や児童の実態を整理する方法を示した。

ワークシート③

学習指導要領の目標や内容をもとに、単元の目標や内容を考えましょう。

1 単元の目標を考えましょう。

- 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めること
→ ()
- 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること
→ ()
- 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること
→ ()

2 単元の内容を考えましょう。

- ① 主としてコミュニケーションに関すること
 - 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること
→ ()
 - 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること
→ ()
 - 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること
→ ()
- ② 主として言語や文化に関すること
 - 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと
→ ()
 - 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと
→ ()
 - 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること
→ ()

図2 「授業プランの作成」に示したワークシート

(イ) 教材の工夫

「調査H21（教員用）」から、教材を作成することに不安を感じている教員が多いことが明らかになった。身近な素材を教材として活用する等、教材を工夫することは、児童の興味・関心や、コミュニケーションを図ろうとする意欲を高めることにつながる。そこで、ここでは、身近な素材として絵本『THE VERY HUNGRY CATERPILLAR』を取り上げ、この絵本を教材として年間計画のどの部分で扱うことができるのかを考えるプログラム内容とした。また、絵本の他にどのようなものが教材として活用できるのかを考える内容も示した。

エ 評価

(ア) 授業における評価の在り方

評価に関する研修を受けることに対しては消極的であるという「調査 H21（教員用）」の結果をふまえ、評価を充実させるための研修プログラムを作成した。児童の学習意欲を高め、積極的にコミュニケーションを図ろう

とする態度を養うためには、1時間の授業の中で児童にどのような変容があったのかを指導者が把握し評価を行うことが大切である。ここでは、授業における評価の在り方の理解を深めるため、指導案をもとに評価の観点や評価の方法を考える内容を示した。また、適切に評価し、賞賛や激励といった形で評価の結果を児童に伝えることで、児童の意欲をさらに高めることができる。このような評価を適切に行うためには、指導者が一つ一つの活動において目指す児童の姿を明確につかんで授業に臨む必要がある。そこで、この研修プログラムでは、評価の観点や評価の方法に加え、授業における一つ一つの活動に対して目指す児童の姿を考える内容を示した。

(4) 授業評価

「外国語活動」における教員の指導力向上のためには、研究授業を実施し、共通の視点を持って相互に評価をし合うことが大切である。ここでは、授業を見る観点を示した「授業評価シート」⁵⁾やVTRを用いた授業の検討をととして「外国語活動」における授業評価の在り方について理解を深める内容をプログラムに取り入れた。なお、「授業評価シート」の項目は、『小学校外国語活動研修ガイドブック』に示されている内容をもとに作成したが、各校で重点的に取り組んでいる項目を付け加えられる空欄を設け、学校の実態に合わせてさらに効果的に活用できるように工夫した。

3 「校内研修プログラム」の考察 — 「外国語活動実践研修講座」をととして—

作成した各研修プログラムを「外国語活動実践研修講座」において実施した。同講座は、当所での研修と所属校での実践の繰り返しの中で、実践的指導力を育成する「実践研修講座」である。この「実践研修講座」の特徴を生かし、受講者の振り返りや授業実践をととして、それぞれの研修効果について考察した。

(1) 教員の「外国語活動」に対する不安の軽減

「校内研修プログラム」に示した『「目標」の体験的な理解』と「単元目標の作成をととした『目標』の理解』では、アクティビティや単元目標の作成をととして「目標」を体験的に理解することをねらいとした。

同講座において、「目標」の3つの柱の一つである「外国語を通じて言語や文化について体験的な理解を図る」ことが具体的にイメージできるように、リズムに合わせて英単語を繰り返し発音しながら英語と外来語の発音の違いを考える活動を行った。受講者から「目標に示されている『体験的に』という言葉が何を表しているのかわかりにくかったが、実際にアクティビティを体験したことで『聞きながら感じる』というように解釈すればいいということがわかった」等の意見が得られた。また、授業プランを作成する際に、「目標」と『英語ノート』の内容を照らし合わせながら単元目標を考えたことにより、受講者は、児童に身に付けさせたい力を具体的に考えることができ、「外国語活動」の授業で目指す児童の姿を十分にイメージすることができた。

このように、アクティビティを体験したり単元目標を考えたりすることによって、「目標」を具体的にイメージすることができる考える。

また、『英語ノート』の授業への活用のしかた」と「ALTとのチーム・ティーチングによるアクティビティの進め方」では、進行役による授業の例示や、参加者による模擬授業を取り入れた。

同講座でも、受講者が児童役となり、『英語ノート』に示されている内容の他に自分たちが考えた内容を付け加えてアクティビティを体験した。受講者の多くは、これまで『英語ノート』に記載されている内容に忠実に授業を進めなければならないと考えていたという。しかし、児童役となってアクティビティを体験したことで、コミュニケーションを図ろうとする意欲が高まることを実感でき、児童の実態に合わせながら工夫をすることの大切さに気付くことができた。また、学級担任やALTの役割について確認しながら、講師とALTが授業を例示し、受講者が児童役となってその授業を体験した。その後、体験したことを生かして受講者が学級担任役となってALTと模擬授業を行ったことで、学級担任とALTとのチーム・ティーチングによる効果的なアクテ



図3 ALTとの模擬授業の様子

ィビティの進め方について理解を深めることができた(図3)。これにより、「ALTとの模擬授業やALTと講師の先生との授業から、自校でも実践できそうなことを取り入れたいと思った」というように、ALTとチーム・ティーチングで授業を行うことに対して自信を持てたようである。

このように『英語ノート』の授業への活用のしかたと「ALTとのチーム・ティーチングによるアクティビティの進め方」に示した進行役による授業の例示や模擬授業をとおして、『外国語活動』ではどのように指導をすればよいかわからない」と思っている教員も、授業の進め方の具体的なイメージを持つことができると考える。

(2) 児童に身に付けさせたい力を意識した授業づくり

「授業プランの作成」では、授業における一つ一つの活動のねらいを考えるなど、児童に身に付けさせたい力を意識しながら授業を構成する内容を示した。

同講座でも、授業プランを作成する際に、児童の実態や、1時間の授業における一つ一つの活動のねらいを考えたことで「今まで何となく行っていた『外国語活動』の指導だったが、児童に身に付けさせたい力を明確にし、その目標に向かった授業づくりをしていく視点や過程を知ることができた」等の意見が得られた。これまで『英語ノート指導資料』に示されている内容のとおり授業を行っていた受講者も、児童に身に付けさせたい力や普段行っている活動の意味を意識しながら授業プランを作成することができたと考える。さらに、学校や児童の実態について整理し、学校の特徴的な取組や児童が熱心に取り組んでいることを反映させた授業プランを作成したことで、「学校や児童の実態に合った展開を考えていくことができた」という実感が持てたと考える。

また、所属校での授業実践において、授業者がねらいをしっかりと意識し、そのねらいに沿って活動や教材を工夫した結果、児童の間に自然なコミュニケーションが生まれ、「話したい」、「聞きたい」という意欲が高まったという事例がみられた。その授業では、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をはぐくむことをねらい、クイズの答えが正解であった時に使う“right”や間違ったときに使う“wrong”という表現に加え、惜しかったときに使う“close”という表現を児童に伝えた。そのことにより、「正解した」「間違った」という1往復で終わる会話ではなく、「惜しかったね」「もう少しヒントをちょうだい」というような自然なコミュニケーションが児童の間に生まれた。



図4 友達の出すクイズに意欲的に答えようとする児童

また、児童の「話したい」、「聞きたい」という意欲を高めるために、「スリー・ヒント・クイズ」を取り上げ、児童が考えた問題を用いてクイズ大会を行った。児童は自分たちで考えた問題を出し合ったことで、友だちの出すクイズに真剣に耳を傾け、何とかして自分の知っている英語を使って答えようとした(図4)。

このように、「校内研修プログラム」の「授業プランの作成」に示した研修を受けたことで、受講者は児童に身に付けさせたい力を意識しながら授業を構成することができた。その結果、児童の「外国語活動」に対する意欲が高まり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をはぐくむことができたと考える。

(3) 授業改善に向けての新たな気付き

「校内研修プログラム」で示した、「教材の工夫」や「授業における評価の在り方」、「授業評価」の内容は、新たに教材を考えたり、自らの授業を振り返ったりすることによって、現在「外国語活動」の指導をしている教員にとっても、授業改善に向けての新たな気付きを得る好機になると考える。授業実践に対してある程度の自信を得ていた受講者も、教材を工夫することや年間指導計画に示された目標や表現に沿って教材を取り入れることの大切さにあらためて気付くことができた。

また、評価に関しても、評価の在り方を考えることをとおして、「これまで、授業では、漠然と児童の様子を観察していたが、評価が曖昧にならないように、評価の観点を意識しながら授業に臨むことが大切だと思った」というように、一つ一つの活動について、評価の観点や評価の方法をしっかりと意識しておくことの重要性につ

いて再認識することができたと考える。

さらに、同講座において、「授業評価シート」を用いて授業の検討を行ったところ、「これまで、授業を見る観



図5 VTRを視聴しながら授業の検討を行っている様子

点をはっきりしないまま授業を参観していたが、『授業評価シート』を用いたことで、自らの授業改善に向けた視点が明らかになった」、「『授業評価シート』を用いたことで、授業について検討する時にも多くの意見が出され、今後の参考にできそうなことを聞くことができた」等、授業改善に向けた手がかりを得られたという意見が聞かれた（図5）。

このように、「教材の工夫」や「授業における評価の在り方」、「授業評価」に示した内容をとおして、自らの授業を振り返ったり、新たな視点を得たりすることができ、授業改善に結び付くのではないかと考える。

おわりに

平成23年4月から「外国語活動」が完全実施となるが、「外国語活動」を担当している教員の中には、「外国語活動」の指導に対して不安を感じているものの、『英語ノート指導資料』があるので、何とか授業はできる」と感じている教員もいるようである。確かに、『英語ノート指導資料』には、「外国語活動」の進め方が具体的に示されている。しかし、教具やそれを使いこなす技術があっても、「外国語活動」が目指す「コミュニケーション能力の素地を養う」こととは何かをしっかりと理解し、1時間の授業で身に付けさせたい力を意識しなければ、「外国語活動」が、児童にとって知的に楽しい時間ではなく、単にゲーム等ができるだけの楽しい時間となる恐れがある。

本研究では、「外国語活動」に対する教員の意識調査から明らかになった指導力向上に必要な研修要素をもとに「校内研修プログラム」を作成し、「外国語活動実践研修講座」の実施をとおしてその改善を図った。受講者からは、「最初は不安だったが、この研修をとおして『外国語活動』の授業を行うことに自信が付いた」「授業プランの作成のしかたや評価の在り方について学んだことで、自分自身でも『外国語活動』の授業が充実するようになったと感じる」等、同プログラムが、教員の指導力向上や「外国語活動」に対する不安の軽減につながったことを示す感想が寄せられている。また、「研修の流れが明記してあるので、研修を担当する者にとってとても心強い」「具体的な活動が例示されており、十分に活用できる」等、校内研修を担当する教員にとって活用しやすい構成になっているという意見も聞かれた。本プログラムが、多くの学校の校内研修で活用されることを期待するとともに、今後さらに、本プログラムを各学校の実態に応じてより活用しやすくする工夫を考えたい。

最後に、平成21年度より2年間、県立嬉野台生涯教育センター本田毅主任専門指導員及び兵庫教育大学大学院吉田達弘准教授に御協力いただいた。ここに、心よりの謝意を表する。

注)

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領』, 2008
- 2) 文部科学省『小学校外国語活動研修ガイドブック』, 2008, p. 10
- 3) 水田時男、浅井憲一、稲次一彦、越川昌信、行本健一、早瀬幸二、長谷川宏、高橋信之、難波宏司、三原智雄
『『小学校外国語活動』における教員の指導力向上に関する研究（中間報告）』『研究紀要第120集』, 兵庫県立教育研修所, 2010
- 4) 調査結果の詳細は、同上書に示している。
- 5) 当所では、「授業改善リーダー育成のための研修の在り方に関する研究（中間報告）』『研究紀要第116集』において、授業研究を活性化させていくための具体的な手法として「授業評価シート」を提案した。

〈参考文献〉

- ・文部科学省『小学校外国語活動研修ガイドブック』, 2008

「小学校外国語活動」における教員の指導力向上に向けた

校内研修プログラム

○「目標」の理解

- ・プログラム1 「目標」の体験的な理解
- ・プログラム2 単元目標の作成をととした「目標」の理解

○活動の進め方

- ・プログラム1 『英語ノート』の授業への活用のしかた
- ・プログラム2 ALTとのティーム・ティーチングによるアクティビティの進め方

○授業の組立て

- ・プログラム1 授業プランの作成
- ・プログラム2 教材の工夫

○評価

- ・プログラム1 授業における評価の在り方
- ・プログラム2 授業評価

平成23年3月

兵庫県立教育研修所

「目標」の理解

学習指導要領に示されている「外国語活動」の目標は、「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」こととなっています。この目標を理解することは、「外国語活動」の授業をととして「児童にどのような力を身に付けさせるのか」を考えることにつながります。ここでは、学習指導要領に示されている目標の理解に向けた研修について説明します。

プログラム1. 「目標」の体験的な理解

〈ねらい〉

『英語ノート』等に示されているアクティビティを行う際に、「児童にどのような力を身に付けさせるのか」を考えることが重要です。この研修プログラムでは、『英語ノート』に示されているアクティビティの体験をととして、それぞれの目標がどのような児童の姿につながっているのかをイメージしながら、参加者の学習指導要領に示されている「外国語活動」の目標に対する理解を深めます。

〈準備物〉

○言語や文化について体験的に理解を深めること

学習指導要領（平成20年3月）、『英語ノート1』

○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること

『英語ノート2』、『英語ノート』に示されている絵を拡大したカード

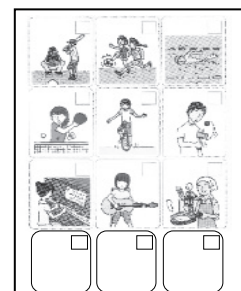
『英語ノート2』付属CD、

自分のできることやできないことを記入できるようにしたワークシート

（『英語ノート2』p.26に新たに枠を設けたもの）〈右図参照〉

○外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること

『英語ノート1』、『英語ノート1』付属CD、『英語ノート』に示されている絵を拡大したカード



〈本研修プログラムで使用する『英語ノート』の単元例〉

『英語ノート1』 Lesson4 「自己紹介をしよう」

『英語ノート2』 Lesson4 「できることを紹介しよう」

概 略

- | | |
|---|---|
| 1 | ねらいを確認する |
| 2 | 「外国語活動」の目標を確認する <ul style="list-style-type: none"> ・言語や文化について体験的に理解を深めること ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること |
| 3 | アクティビティを体験する <ul style="list-style-type: none"> ○言語や文化について体験的に理解を深めること |

4	〈体験的に理解を深めるためのアクティビティ例〉 『英語ノート1』 p.25 Lesson4 「自己紹介をしよう」 →英語を聞いてみたり言ってみたりして外来語と英語との違いを感じる。 ○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること 〈体験的に理解を深めるためのアクティビティ例〉 『英語ノート2』 p.26 Lesson4 「できることを紹介しよう」 →自分ができる内容を付け加えたり、「a little」「very well」等、程度を表す表現を取り入れたりしながら、「自分のことが言いたい」「友だちのことが知りたい」と感じられるようなコミュニケーションの場を作る。 ○外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること 〈体験的に理解を深めるためのアクティビティ例〉 『英語ノート1』 p.25 Lesson4 「自己紹介をしよう」 →リズムに合わせたりゲームをとおしたりしながら単語や文を繰り返すことで、音声に慣れ親しむ。 まとめ ・3つの目標はそれぞれ独立しているものではなく、それぞれが関連し合っていることを伝える。 ・それぞれのアクティビティがどの目標につながっているのかを意識することを伝える。
---	---

「目標」の体験的な理解 【展開例】	
研修の流れ	留意点
1. <u>ねらいを確認する</u> 「『英語ノート』等」に示されているアクティビティを行う際に、『児童にどのような力を身に付けさせるのか』を考えることが重要です。この研修では、『英語ノート』に示されているアクティビティの体験をとおして、それぞれの目標がどのような児童の姿につながっているのかをイメージしながら学習指導要領に示されている『外国語活動』の目標の理解を深めます。」 2. <u>「外国語活動」の目標を確認する</u> 「『外国語活動』の目標は、『言語や文化について体験的に理解を深めること』『積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること』『外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること』と大きく3つの柱からなっています。」 3. <u>アクティビティを体験する</u> ○言語や文化について体験的に理解を深めること 「今から『言語や文化について体験的に理解を深めること』とはどういうことか、アクティビティをとおして実際に体験してみましょう。」 〈体験的に理解を深めるためのアクティビティ例〉 『英語ノート1』 p.25 Lesson4 「自己紹介をしよう」	

①発音に慣れる

「今から、カードを見せるので発音しましょう。」

②発音の違いを考える

(全てのカードを黒板に並べる)

「この中で、普段と同じ発音をしているものや違う発音をしているものはどれでしょう。」

③まとめ

「今回は、外来語とそのもとになる英語を比較するという内容を扱いました。『言語や文化について体験的に理解を深めること』とは、このように、外国語を使った活動を通して、国語や日本の文化を含め、言語や文化に対する理解を深め、日本語とは異なる言語に触れることで、言葉の面白さや豊かさに気付かせたり、言語に対する関心を高めたり、これを尊重する態度を身に付けさせようとする事です。」

○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること

「今から『積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること』とはどういうことか、アクティビティをとおして実際に体験してみましょう。」

〈体験的に理解を深めるためのアクティビティ例〉

『英語ノート2』 p. 26 Lesson 4 「できることを紹介しよう」

①表現に慣れる

「CDを聞いて、どの絵が選びましょう。」

②定型表現を用いてペアで尋ね合う

「“Can you ～?” “Yes, I can.” “No, I can’t” を用いて、ペアでできることやできないことを聞きましょう。」

③『英語ノート』に載っていない内容で、できることやできないことを尋ね合う

「ワークシートに、自分ができることやできないことの絵を描いて尋ね合いましょう。」

④『英語ノート』に載っていない内容で、できることやできないことを尋ね合った感想を話し合う

「自分ができることやできないことを尋ね合ったとき、どのように感じましたか。」

⑤まとめ

「今回は、自分ができることを考えたり、できる程度を表す表現をとり入れたりしたことで、自分のこととして積極的にコミュニケーションを図ることができました。このように、『外国語活動』において、自分の思いを伝えようとする態度の育成を目指し、積極的に他者とかかわる子どもたちを育てていこうとすることが大切です。」

・発音の違いだけでなく、発音しにくかった言葉など、気付いたことを自由に出せるようにしましょう。

・ very well (とてもよくできる)
a little (少しできる) 等、程度を表す表現を伝えることで、より自分のことと実感しながら尋ね合うことができます。

○外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること

「今から『外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること』とはどういうことか、アクティビティをとおして実際に体験してみましょう。」

〈体験的に理解を深めるためのアクティビティ例〉

『英語ノート1』 p.25 Lesson4 「自己紹介をしよう」

①発音に慣れる

「今から、カードを見せるので発音しましょう。」

- ・進行役の後に
- ・参加者だけで
- ・リズムに合わせて
- ・カードを見せるタイミングを速くして

②キーワード・ゲームを行う

「先程と同じようにカードを見て発音をしますが、〇〇のカードの時には手をたたくようにしましょう。」

③ミッシング・ゲームを行う

(全てのカードを黒板に並べる)

「目をつぶりましょう。」

(カードを1枚だけ隠して、並べ方を変える)

「この中で、一枚だけカードを隠しました。そのカードは何でしょう。」

④まとめ

「今回は、何度も発音を繰り返したり、ゲームをしたりしながら、外国の音声に慣れ親しみました。このように、外国語を通じて、『外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる』とは、中学校段階の文法等の英語教育を前倒しにするのではなく、音声を中心としたコミュニケーション活動を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませることです。」

4. まとめ

「今回の研修では、『外国語活動』の目標の3つの柱についてそれぞれ体験的に理解してもらいました。しかし、この3つはそれぞれ独立しているものではなく、それぞれが関連合っています。これから『外国語活動』で様々なアクティビティを行う際には、そのアクティビティがどの目標につながっているのかということを意識していくことが大切です。」

- ・最初は進行役と一緒に発音し、ある程度慣れてから参加者だけで行うなど、段階に分けて行うようにしましょう。また、リズムに合わせて発音したり、カードを見せるタイミングを速くしたりする等、興味を持続させる工夫をしましょう。
- ・一人で手をたたくだけでなく、ペアで手をたたいたり、握手をしたりするなど様々な工夫ができます。
- ・隠すカードの枚数を増やしていく等、興味を持続させる工夫をしましょう。

プログラム2. 単元目標の作成をととした「目標」の理解

〈ねらい〉

「外国語活動」の授業を行う際に、「児童にどのような力を身に付けさせるのか」を考えることが重要です。この研修では、「外国語活動」の目標をもとに単元目標を考える演習をととして、単元で育てたい児童の姿をイメージしながら、参加者の学習指導要領に示されている「外国語活動」の目標に対する理解を深めます。

※本来は学習指導要領の目標や内容、『英語ノート』の内容をもとに立てられた学校の年間指導計画に沿って単元目標を考えますが、今回は「外国語活動」の目標の理解を目的とした研修であるため、『英語ノート』の単元内容をもとに単元目標を考えることにしています。

〈準備物〉

学習指導要領（平成20年3月）、『英語ノート1』

〈本研修プログラムで使用する『英語ノート』の単元例〉

『英語ノート1』 Lesson3 「数で遊ぼう」

概 略	
1	ねらいを確認する
2	「外国語活動」の目標を確認する ・言語や文化について体験的に理解を深めること ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること
3	「外国語活動」の目標をもとに単元目標を考える (例)『英語ノート1』 Lesson3 「数で遊ぼう」
4	まとめ ・学習指導要領を学習内容と比べてみることで、どの目標がどのような活動につながっているのかがイメージできることを伝える。 ・様々なアクティビティを行う際にも、そのアクティビティがどの目標につながっているのかということ意識することが大切であることを伝える。

単元目標の作成をととした「目標」の理解 【展開例】

研修の流れ	留意点
1. <u>ねらいを確認する</u> 「『外国語活動』の授業を行う際に、『児童にどのような力を身に付けさせるのか』を考えることが重要です。この研修では、『外国語活動』の目標をもとに単元目標を考える演習をととして、単元で育てたい児童の姿をイメージしながら学習指導要領に示されている『外国語活動』の目標の理解を深めます。」	

2. 「外国語活動」の目標を確認する

『外国語活動』の目標は、『言語や文化について体験的に理解を深めること』『積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること』『外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること』と大きく3つの柱からなっています。」

3. 「外国語活動」の目標をもとに単元目標を考える

①単元の内容を確認する

「今回は、『英語ノート1 Lesson3 数で遊ぼう』の単元目標を考えます。『英語ノート1』のp.16をあげましょう。」

- ・数を使った様々な遊び
- ・数の数え方

②「言語や文化について体験的に理解を深めること」に関する単元目標を考える

「この単元では、数を使った様々な遊びや数の数え方が話題となっています。それでは、数を話題としたこの単元を『言語や文化について体験的に理解を深めること』という目標に照らし合わせた場合、どのような単元目標が考えられますか。」

- ・個人で考える
- ・グループで考える
- ・発表する

③「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること」「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること」に関する単元目標を考える

「同じように、『積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること』『外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること』という目標に照らし合わせて単元目標を考えてみましょう。」

- ・個人で考える
- ・グループで考える
- ・発表する

4. まとめ

「今回の研修では、学習指導要領の目標をもとに単元目標を考えました。このように学習指導要領を学習内容と比べてみることで、どの目標がどのような活動につながっているのかがイメージできると思います。授業の中で、様々なアクティビティを行う際にも、そのアクティビティがどの目標につながっているのかということを意識しましょう。」

- ・グループを作るときには、1グループ4人～5人を目安として、「外国語活動」の指導経験がある教員とそうでない教員が偏らないように配慮しましょう。

活動の進め方

「外国語活動」を行うにあたって、ALTの活用等をおして、英語でのコミュニケーションを体験させるとともに、場面やテーマに応じた基本的な単語や表現を用いて、音声面を中心とした活動を行い、言語や文化について理解させることが大切です。ここでは、『英語ノート』の授業への活用のしかたやALTとのチーム・ティーチングによるアクティビティの進め方等、授業における活動の進め方に関する研修について説明します。

プログラム1.『英語ノート』の授業への活用のしかた

〈ねらい〉

『英語ノート』は、共通の教材として文部科学省から配布されていますが、さらに効果的に活用するためにも、児童の興味・関心を観察し、児童の生活に関連させるなど、児童の実態に合った工夫が必要です。この研修プログラムでは、模擬授業等をおして、『英語ノート』の授業への活用のしかたについて習得を図ります。

〈準備物〉

○児童が考えた内容を取り入れた活動

『英語ノート2』、『英語ノート2』付属CD、『英語ノート』に示されている絵を拡大したカード、『英語ノート』に示されている絵を拡大したカードと同じ大きさの白紙

○児童にとって身近な内容を取り入れた活動

『英語ノート2』、『英語ノート2』付属CD、『英語ノート』に示されている絵を拡大したカード、校舎の配置図

〈本研修プログラムで使用する『英語ノート』の単元例〉

『英語ノート2』 Lesson5 「道案内をしよう」

概 略

1 ねらいを確認する

2 進行役が授業を例示する

○児童が考えた内容を取り入れた活動例

『英語ノート2』 Lesson5 「道案内をしよう」 p.34 Activity②

→『英語ノート』に示されている内容の他に、児童が考えた店や建物の絵を付け加える。

○児童にとって身近な内容を取り入れた活動例

『英語ノート2』 Lesson5 「道案内をしよう」 p.34 Activity②

→『英語ノート』に示されている地図の代わりに、自分の学校の教室の配置図を用いる。

3 模擬授業を行う

①『英語ノート』から模擬授業の場面を選ぶ。

②例示した授業を参考にしながら、15分間の模擬授業を考える。

【模擬授業を考える際の視点】

4	・児童にとって身近な場面、表現、内容を大切にする。(実際に学校にあるもの、児童が表現したいもの) ・他教科や領域での学習を有効活用する。 ③模擬授業を行う ・模擬授業後には、検討会を行い、学級担任役・児童役それぞれの立場から感じたことについて話し合う。 まとめ
---	---

『英語ノート』の授業への活用のしかた 【展開例】	
研修の流れ	留意点
<u>1. ねらいを確認する</u> 『英語ノート』は、共通の教材として文部科学省から配布されていますが、さらに効果的に活用するためにも、児童の興味・関心を観察し、児童の生活に関連させる等、児童の実態に合った工夫が必要です。この研修では、模擬授業等をとおして、『英語ノート』の授業への活用のしかたについて習得を図ります。」 <u>2. 進行役が授業を例示する</u> ○児童が考えた内容を取り入れた活動例 『英語ノート2』 Lesson5 「道案内をしよう」 p.34 Activity② ①絵カードを用いて建物や店の言い方に慣れる 「今からカードを見せるので、一緒に発音しましょう。」 ②定型表現を覚える (Let's Chant ♪Where is the station? ♪) 「リズムに合わせて言ってみましょう。」 「次は、動きを付けます。まずは、見ていてください。」 ・進行役がチャンツに合わせて実際に動く。 「一緒にやってみましょう。」 ・参加者もチャンツに合わせて実際に動く。 ③ペアで道案内をする (机の上に教師用絵カードを並べる) 「今からペアで道案内をしましょう。案内役は後ろを歩きながら指示を出してください。目的地はペアで相談して決めてください。まずは、見本を見せます。」 (進行役と参加者で例示をした後) 「それではペアで道案内をしましょう。」	・教室を町に、机を建物に見立ててカードを並べます。

④建物や店の内容を考える

「次は、皆さんが考えた建物やお店を付け加えて道案内をします。今から配るカードに、絵を描いてください。」

⑤参加者が考えた建物や店の言い方に慣れる

「皆さんに描いてもらった建物やお店の名前を一緒に発音しましょう。」

⑥ペアで道案内をする

「皆さんが考えた建物やお店を付け加えて、ペアで道案内をしましょう。進め方は先程と同じです。」

⑦感想を話し合う

「自分たちで考えた内容を付け加えたとき、どのように感じましたか。」

⑧まとめ

「このように、児童が考えた内容を取り入れることによって、テキストに載っている内容が児童にとって自分のものとなり、コミュニケーションを図ろうという意欲が高まります。また、児童が考えた内容を取り入れる際には、『どうしてその内容を入れたのか』等、自分の考えを表現する場を取り入れましょう。」

○児童にとって身近な内容を取り入れた活動例

『英語ノート2』 Lesson5 「道案内をしよう」 p.34 Activity②

※①～③は「児童が考えた内容を取り入れた活動例」と同じ

④校舎内を案内をする

「次は、実際に校舎内を案内しましょう。」

⑤感想を話し合う

「実際に道案内をすると、どのように感じましたか。」

⑥まとめ

「このように、児童にとって身近な内容を取り入れることで、コミュニケーションを図ろうという意欲が高まると同時に、『外国語活動』の時間に学習したことと日常生活を結び付けて考えることができます。」

3. 模擬授業を行う

①グループで模擬授業の内容を考える

「先程例示した授業を参考にしながら、15 分間の模擬授業を考えていただきます。模擬授業を考える際には、『英語ノート』の内容に加え、実際に学校にあるもの、児童が表現したいもの等、児童にとって身近な場面、表現、内容や、他教科や領域での学習を関連させたりしましょう。」

②模擬授業を行う

「今から、それぞれのグループに模擬授業を行っていただきます。授業者以外は児童役として授業に参加してください。」

・建物や店を自由に考えさせる
際には電子辞書等を使うと
便利です。

また、参加者の意欲をさらに高めるために、その建物や店を考えた理由を話し合う場面をもちましょう。

- ・グループを編成する際には、「外国語活動」の指導経験がある教員とそうでない教員が偏ることがないように配慮しましょう。

・校内研修の時間が十分にとれない場合は、「3. 模擬授業を行う」以降の研修を別の研修で行っても構いません。

③振り返りを行う

「まず、授業を行ったグループから、『英語ノート』をどのように活用しようと考えたのか説明をしてください。」

(授業を行ったグループの説明)

「次に、児童役のグループから、授業を受けた感想を言ってください。」

4. まとめ

「今回の研修で行ったように、実際に学校にあるもの、児童が表現したいもの等、児童にとって身近な場面、表現、内容や、他教科や領域での学習を関連させることで児童の興味・関心が高まります。今回の模擬授業等を参考に、児童の実態に合わせて『英語ノート』を工夫していきましょう。」

プログラム2. A L Tとのチーム・ティーチングによるアクティビティの進め方

〈ねらい〉

学級担任とA L Tがそれぞれの役割を分担して授業を展開することにより、児童一人一人により細かな指導をすることができるとともに、指導者が単独ではできなかった活動を組み込むことができます。ここでは、模擬授業等をとおして学級担任とA L Tとのチーム・ティーチングにおけるそれぞれの役割の理解やアクティビティの進め方について習得を図ります。

〈準備物〉

『英語ノート2』、『英語ノート2』 付属CD、『英語ノート』 に示されている絵を拡大したカード、ワークシート①

〈本研修プログラムで使用する『英語ノート』の単元例〉

『英語ノート2』 Lesson5 「道案内をしよう」

概 略

1 ねらいを確認する

2 進行役が以下の要素を取り入れた授業を例示する

※A L Tが配置されていない学校やA L Tの協力が得られない場合には、英語を用いることが得意な教員がA L Tの代わりを演じて構いません。

【学級担任の役割】

- ・児童全員にコミュニケーションを図る機会をもたせる
 - 例1 A L Tと2人で児童半数ずつを相手に挨拶をする
 - 例2 A L Tとともに児童の活動に支援者として関わる
- ・A L Tの英語に対する児童の理解を助ける
 - 例1 A L Tとのデモンストレーションを行う
 - 例2 A L Tの説明でキー・ワードとなる言葉を繰り返す
- ※A L Tの英語を翻訳することはできる限り避け、教師が児童の不安な気持ちを代弁したり、動作で示したりしながら、児童の理解を助けます。
- ・どの児童も参加できるように授業をコントロールする
 - 例1 活動の形態を工夫する（全体で、グループで、個人で 等）
 - 例2 活動を進める速さを操作する

【A L Tの役割】

- ・児童全員にコミュニケーションを図る機会をもたせる
 - 例1 学級担任と2人で児童半数ずつを相手に挨拶をする
 - 例2 学級担任とともに児童の活動に支援者として関わる
- ・児童に生きた外国語の提供者として、自然な言語の使い方や発音を指導する
 - 例1 学級担任とのデモンストレーションを行う
 - 例2 英語を使って直接コミュニケーションを図る体験をする

3	学級担任の役割とALTの役割を説明する
4	模擬授業を行う ①グループで模擬授業の内容を考える ・参加者が中心となって模擬授業の内容を考えて、その内容をALT役に伝えるようにします。ただし、「外国語活動」の指導に自信がない教員が多い場合には、ALT役が積極的に打ち合わせに参加して、一緒に模擬授業の内容を考えるようにします。 ②模擬授業を行う ・模擬授業後には、検討会を行い、学級担任役・児童役それぞれの立場から感じたことについて話し合います。
5	まとめ

ALTとのチーム・ティーチングによるアクティビティの進め方 【展開例】	
研修の流れ	留意点
1. ねらいを確認する 「学級担任とALTがそれぞれの役割を分担して授業を展開することにより、児童一人一人により細かな指導をすることができるとともに、指導者が単独ではできなかった活動を組み込むことができます。ここでは、学級担任とALTとのそれぞれの役割の理解やアクティビティの進め方について模擬授業等とおして研修します。」 2. 進行役が以下の要素を取り入れた授業を例示する (例)『英語ノート2』 Lesson5 「道案内をしよう」 p.34 Activity② ①学級担任役とALT役が二手に分かれて児童役の参加者と挨拶をする ②学級担任役が授業のねらいを説明する 学級担任「今日は、『英語ノート2』 Lesson5 『道案内をしよう』の模擬授業を体験していただきます。」 ③絵カードを用いて建物や店の言い方に慣れる 学級担任「今からカードを見せるので、ALTと一緒に発音しましょう。」 ・ALTがカードを見せながら発音をする。	・ALTが配置されていない学校やALTの協力が得られない場合には、英語を用いることが得意な教員がALTの代わりを演じて構いません。 ・最初はALT役と一緒に発音し、ある程度慣れてから参加者だけで行うなど、段階に分けて行うようにしましょう。また、リズムに合わせて発音したり、カードを見せるタイミングを速くしたりする等、興味を持続させる工夫をしましょう。

④定型表現を覚える

(Let's Chant ♪Where is the station? ♪)

学級担任「今からALTの〇〇先生と一緒にチャンツをするので見てください。」

(学級担任役とALT役が質問する側と案内する側に分かれ、ジェスチャーを付けてチャンツを行う。)

学級担任「一緒にやってみましょう。」

(参加者を質問する側と案内する側に分け、学級担任役・ALT役と一緒にチャンツを行う。)

⑤ペアで道案内をする

(机の上に教師用絵カードを並べる)

学級担任「今からペアで道案内をしましょう。まずは、ALTの〇〇先生とやってみます。」

(学級担任役とALT役で例示をする。)

学級担任「誰かALTの〇〇先生と一緒に道案内をしてくれませんか。」

(児童役とALT役で行う。)

学級担任「それではペアで道案内をしましょう。」

・教室を町に、机を建物に見立ててカードを並べます。

・ALTの英語が児童役に伝わっていないときは、学級担任役が動作で示したり、児童役の不安な気持ちを代弁したりする等、理解を助けるようにします。

・学級担任役はALT役とともに児童役の活動を支援します。

3. 学級担任の役割とALTの役割について確認する

「学級担任とALTには次のような役割があります。」

【学級担任の役割】

・児童全員にコミュニケーションを図る機会をもたせる

例1 ALTと2人で児童半数ずつを相手に挨拶をする

例2 ALTとともに児童の活動に支援者として関わる

・ALTの英語に対する児童の理解を助ける

例1 ALTとのデモンストレーションを行う

例2 ALTの説明でキー・ワードとなる言葉を繰り返す

※ALTの英語を翻訳することはできる限り避け、教師が児童の不安な気持ちを代弁したり、動作で示したりしながら、児童の理解を助けます。

・どの児童も参加できるように授業をコントロールする

例1 活動の形態を工夫する

(全体で、グループで、個人で 等)

例2 活動を進める速さを操作する

【ALTの役割】

・児童全員にコミュニケーションを図る機会をもたせる

例1 学級担任と2人で児童半数ずつを相手に挨拶をする

例2 学級担任とともに児童の活動に支援者として関わる

・児童に生きた外国語の提供者として、自然な言語の使い方や発音を指導する

例1 学級担任とのデモンストレーションを行う

例2 英語を使って直接コミュニケーションを図る体験をする

4. 模擬授業を行う

①グループで模擬授業の内容を考える

「先程例示した授業を参考にして、グループで15分間の模擬授業を考えてワークシート①に記入してください。また、模擬授業を考える際には、先程示した学級担任やALTの役割を意識するようにしましょう。」

※ALT役との打ち合わせについて

参加者が中心となって模擬授業の内容を考えて、その内容をワークシート①を用いながらALT役に伝えるようにします。

ただし、「外国語活動」の指導に自信がない教員が多い場合には、ALT役が積極的に打ち合わせに参加して、一緒に模擬授業の内容を考えるようにします。

②模擬授業を行う

「今から、それぞれのグループに模擬授業を行っていただきます。授業者以外は児童役になって授業に参加してください。」

③振り返りを行う

「授業者から感想を言ってください。」

「次に、児童役ของกลุ่มから、授業を受けた感想を言ってください。」

「最後に、ALT役の〇〇先生から感想を言ってください。」

5. まとめ

「今回の研修で行ったように、学級担任とALTがそれぞれの役割を分担して授業を展開することにより、児童一人一人により細かな指導をすることができるとともに、指導者が単独ではできなかった活動を組み込むことができます。今回の模擬授業等を参考に、学級担任とALTが連携したティーム・ティーチングを行いましょう。」

・グループを編成する際には、「外国語活動」の指導経験がある教員とそうでない教員が偏らないように配慮しましょう。

・模擬授業の内容を考えたりALTと打ち合わせを行ったりする際には、『小学校外国語活動研修ガイドブック』（文部科学省）p.86～p.96に記載されている、「クラスルーム・イングリッシュ」、「基本英会話」を参考にしましょう。

ワークシート①

児童の活動	学級担任の活動	A L T の活動

授業の組立て

「外国語活動」の授業を行う際には、児童の興味・関心に基づいて指導計画を立て、指導内容や活動を考えたり、教材や教具を準備したりするなど、児童の実態に合わせて事前に授業の組立てを行うことが重要です。ここでは、授業プランの作成のしかた等、授業の組立てに関する研修を説明します。

プログラム1. 授業プランの作成

〈ねらい〉

児童のコミュニケーション能力の素地を養うためには、単元ごと、授業ごとに明確な目標を立て、目標達成のために効率よく授業が展開されなければなりません。ここでは、「外国語活動」の授業プランの作成をとおして、学習指導要領の目標や内容に沿った単元目標や単元内容の設定のしかたや、単元の構成のしかたに対する参加者の理解を深めます。

〈準備物〉

模造紙（グループの枚数分）、付箋、マジック、ワークシート②（授業プラン）
学習指導要領、年間指導計画、『英語ノート』等各校で使用している教材、
ワークシート③（単元目標・内容作成用）

概 略

- | | |
|---|---|
| 1 | ねらいを確認する |
| 2 | 学年や学級の特徴や課題を整理する
①学年や学級の特徴や課題と感じている内容を付箋に書き出す
②内容ごとに分類しながら模造紙に付箋を貼る
③分類したグループに見出しを付ける
④グループ分けした内容をもとに、授業プランに反映させる内容を決める |
| 3 | 自校の年間指導計画に沿って単元の目標や内容を決める |
| 4 | 単元の流れを考える |
| 5 | 年間指導計画、単元計画をもとに本時の目標、本時で扱う表現、展開を考える |
| 6 | グループで授業プランの相互評価を行う |

授業プランの作成 【展開例】	
研修の流れ	留意点
1. <u>ねらいを確認する</u> 「児童のコミュニケーション能力の素地を養うためには、単元ごと、授業ごとに明確な目標を立て、目標達成のために効率よく授業が展開されなければなりません。ここでは、『外国語活動』の授業プランの作成をとおして、学習指導要領の目標や内容に沿った単元目標や単元内容の設定のしかたや、単元の構成のしかたについて理解を深めます。」 2. <u>学年や学級の特徴や課題を整理する</u> 「授業プランを作成する際に、学年や学級の特徴や課題を把握することが大切です。付箋を用いて学年や学級の特徴や課題を整理しましょう。」 ①学年や学級の特徴や課題と感じている内容を付箋に書き出す 「お配りしています付箋に、学年や学級の特徴や課題を記入してください。その際、1枚に1つの内容を記入してください。」 (例) ・スポーツに興味を持っている児童が多い ・地域に外国人が多く住んでいる ・外国語を話すことを恥ずかしがる児童が多い 等 ②内容ごとに分類しながら模造紙に付箋を貼る 「書かれた内容ごとに分類しながら、模造紙に付箋を貼りましょう。」 ③分類したグループに見出しを付ける 「分類された付箋のグループをマジックで囲み、それぞれのグループに見出しを付けましょう。」 ④グループ分けした内容をもとに、授業プランに反映させる内容を決める 「グループ分けした内容を見ながら、授業プランを作成する際に、児童の実態を踏まえて特に気を付けたい事柄や、児童が興味を持っていること等、取り入れたい内容を考え、ワークシート②の『1 本単元設定にあたって』に記入しましょう。」 3. <u>自校の年間指導計画に沿って単元の目標や内容を決める</u> 「学習指導要領の目標と自校の年間指導計画や『英語ノート』等の教材の内容を照らし合わせながら、単元の目標や内容をワークシート③に記入しましょう。」 「ワークシート③の内容をグループで検討して、ワークシート②の『2 本単元の目標』『3 本単元の内容』に記入しましょう。」 4. <u>単元の流れを考える</u> 「単元の目標や内容に沿って単元の流れを考えます。聞く活動から始まり、繰り返し言い、音に慣れる活動、記憶したり自分のものにしたりする活動、自分の意思で言葉を発話する活動に続くように単元の流れを考えます。また、単元の流れが決まったら、ねらいに合った活動を考えます。」	・同じ学年に分かれるなど、少人数のグループを編成します。 ・すべての目標や内容を一つの単元で扱う必要はありません。2年間をとおしてバランス良く扱うように配慮しましょう。

- ・聞く活動例…カルタとり、ビンゴゲーム 等
- ・繰り返し言い、音に慣れる活動例…歌、チャンツ、
キー・ワード・ゲーム 等
- ・記憶したり自分のものにしたりする活動例…ミッシングゲーム 等
- ・自分の意思で言葉を発話する活動例…ショー・アンド・テル 等

「単元の流れや活動の内容をもとにワークシート②の『4 単元計画』を、年間指導計画、『英語ノート』等の教材をもとに『5 本単元で扱う表現』を記入しましょう。」

5. 本時の目標、本時で扱う表現、展開を考える

「年間指導計画、単元計画をもとに、ワークシート②の『6 本時の目標』、『7 本時で扱う表現』に記入しましょう。また、次の内容を参考にしながら、本時の展開を考えワークシート②の『8 本時の展開』に記入しましょう。」

- ア 積極的にコミュニケーションを図る場を設定しているか
- イ 言語や文化について、体験的に理解を深める場を設定しているか
- ウ 児童の活動意欲を高める活動の流れを設定しているか
- エ 児童の興味・関心を喚起する教材の工夫をしているか
- オ 児童一人一人と教師がやりとりをする場面を取り入れているか
- カ もう少しやりたい、続けたいという余韻を持たせてそれぞれの活動を終えるようにしているか

・授業の展開によっては、すべての内容を取り入れる必要はありません。

6. グループで授業プランの相互評価を行う

「次の内容を参考にしながら、グループで作成した授業プランの相互評価を行いましょう」

- ア 児童に身に付けたいことを明確にしているか
- イ 児童の興味・関心に沿った内容を設定しているか
- ウ 児童の発見や思考を生かす内容を設定しているか
- エ 目標に沿った活動内容を設定しているか
- オ 目標に沿った活動形態を設定しているか
- カ 児童の実態に合った表現を設定しているか

ワークシート②

「小学校外国語活動」 授業プラン

1 本単元設定にあたって

2 本単元の目標

3 本単元の内容

4 単元計画

第1時：

第2時：

第3時：

第4時：

5 本単元で扱う表現

6 本時の目標

7 本時で扱う表現

8 本時の展開

過程 (分)	児童の活動	学級担任の活動	A L T の活動	○ 指導上の留意点 △ 評価の観点＜方法＞ □ 国際理解の視点	教材
導 入 ()					
展 開 ()					
挨 拶 ()					

ワークシート③

学習指導要領の目標や内容をもとに、単元の目標や内容を考えましょう。

1 単元の目標を考えましょう。

○言語や文化について体験的に理解を深めること

→ ()

○積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること

→ ()

○外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること

→ ()

2 単元の内容を考えましょう。

① 主としてコミュニケーションに関すること

○外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること

→ ()

○積極的に外国語を聞いたり、話したりすること

→ ()

○言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること

→ ()

② 主として言語や文化に関すること

○外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと

→ ()

○日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと

→ ()

○異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること

→ ()

プログラム2. 教材の工夫

〈ねらい〉

児童の興味・関心やコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めるためには、身近な素材を教材として活用しながら授業を充実させることが大切です。ここでは、絵本や身の回りの素材を教材とした「外国語活動」の進め方を考えることをとおして、教材の工夫のしかたについて参加者の理解を深めます。

〈準備物〉

絵本『THE VERY HUNGRY CATARPILLAR』、年間指導計画

概 略

- | | |
|---|--|
| 1 | ねらいを確認する |
| 2 | <p>絵本『THE VERY HUNGRY CATARPILLAR』を教材としてどのように活用できるかを考える</p> <p>①進行役の範読を聞いて、絵本『THE VERY HUNGRY CATARPILLAR』で使われている表現を考える</p> <p>②自校の年間指導計画に示されている内容を参考にしながら、絵本『THE VERY HUNGRY CATARPILLAR』を教材としてどのように活用できるかを考える</p> <p>③各グループが考えた活用のしかたを発表する</p> |
| 3 | <p>身の回りにある素材を教材としてどのように活用できるかを考える</p> <p>①身の回りにある素材から教材として活用できるものを考える</p> <p>②自校の年間指導計画に示されている内容を参考にしながら、①で出された素材の活用のしかたを考える</p> <p>③②で出された意見をグループごとに発表する</p> |
| 4 | <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な素材を教材として活用することで、児童の興味・関心を高める等、さらに効果的な指導をすることができることを伝える。 ・教材を作成する際には、単に児童の興味を引くだけのものに終わらず、単元や1時間の目標に沿うものとなるように留意することを伝える。 ・学校として教材を充実させていくことが大切であることを伝える。 |

教材の工夫 【展開例】

研修の流れ	留意点
<u>1. ねらいを確認する</u> 「児童の興味・関心やコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めるためには、身近な素材を教材として活用しながら授業を充実させることが大切です。この研修では、絵本や身の回りの素材を教材とした『外国語活動』の進め方を考えることをとおして、教材の工夫のしかたについて理解を深めます。」	

2. 絵本『THE VERY HUNGRY CATARPILLAR』を教材としてどのように活用できるかを考える 「絵本『THE VERY HUNGRY CATARPILLAR』が教材としてどのように活用できるのかを考えてみましょう。」 ①進行役の範読を聞いて、絵本『THE VERY HUNGRY CATARPILLAR』で使われている表現を考える 「絵本『THE VERY HUNGRY CATARPILLAR』には、『曜日』の表現のしかた等、児童に学ばせたい要素が含まれています。絵本『THE VERY HUNGRY CATARPILLAR』を聞きながら、『曜日』の表現のしかたの他に、児童に学ばせたいどのような要素があるか考えてください。」 （進行役が絵本を読む） 「『曜日』の表現のしかたの他に、児童に学ばせたいどのような要素がありましたか？」 （例）果物、数字、～を食べる、お腹がすいている 等 ②自校の年間指導計画に示されている内容を参考にしながら、絵本『THE VERY HUNGRY CATARPILLAR』を教材としてどのように活用できるかを考える 「ここに板書している要素を用いて、絵本『THE VERY HUNGRY CATARPILLAR』を、年間指導計画に示されている内容のどの部分でどのように活用できますか。グループで話し合ってください。」 ③各グループが考えた活用のしかたを発表する 「それぞれのグループで話し合った内容を発表してください。」 3. 身の回りにある素材を教材としてどのように活用できるかを考える 「ここまでは、絵本を教材として活用する方法を考えていただきました。次は、絵本の他に、身の回りにある素材をどのように教材として活用できるのか考えていただきます。」 ①身の回りにある素材から教材として活用できるものを考える 「先程の絵本のように、身の回りにある素材の中で、どのようなものが『外国語活動』の授業に活用できると思いますか。」 （教材として活用できるものの例） 世界地図、色カード、写真、カレンダー、身の回りの具体物 等 ②自校の年間指導計画に示されている内容を参考にしながら、①で出された素材の活用のしかたを考える 「ここに板書した身の回りにある素材は、年間指導計画に示されている内容のどの部分で活用できると思いますか。グループで話し合ってください。」 ③②で出された意見をグループごとに発表する 「それぞれのグループで話し合った内容を発表してください。」	・同じ学年に分かれるなど、少人数のグループを編成します。 ・進行役は、参加者から出された意見を板書します。 ・参加者の「外国語活動」の授業の経験の程度によって、教材として活用できる素材の例を示します。 ・進行役は、参加者から出された意見を板書します。
--	--

4. まとめ

「この研修では、身近な素材を教材として活用する方法について考えました。このように、身近な素材を教材として活用することで、児童の興味・関心を高め、指導を効果的にすることができます。教材を作成する際には、単に児童の興味を引くだけのものに終わらず、単元や1時間の目標に沿うものにすることが大切です。また、作成した教材は学校として保管し、いつでもだれでも使用できるようにすることで、自校の『外国語活動』がさらに充実します。」

評価

目標に沿って児童にどのような変容があったのかを把握し、評価を行うことは、児童の学習意欲を高め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度につながります。また、指導過程や成果等について、授業評価を行うことにより、自らの授業改善の手がかりを得ることができます。ここでは、授業における評価の在り方や研究授業をととした授業評価等、評価に関する研修プログラムを説明します。

プログラム1. 授業における評価の在り方

〈ねらい〉

児童の学習意欲を高め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うためには、1時間の授業の中で児童にどのような変容があったのかを把握することが大切です。この研修では、評価の観点や評価の方法について協議し、授業における評価の在り方について参加者の理解を深めます。

〈準備物〉

ワークシート④、『英語ノート2』、『英語ノート2 指導資料』

※ワークシート④に示している「本時の目標」、「児童の活動」は、『英語ノート2 指導資料』p.94～p.95に示している展開例をもとにしていますが、各学校で実際に行った指導案等をもとに作成しても構いません。

概 略

1 ねらいを確認する

2 評価の観点を確認する

- ・コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- ・外国語への慣れ親しみ
- ・言語や文化に関する気付き

3 児童の活動から評価の観点等を考える

- ①各活動における評価の観点を考える
- ②各活動における目指す児童の姿を考える
- ③各活動における評価の方法を考える
- ④考えた内容を発表する
- ⑤気付いたことを発表する

4 まとめ

- ・評価の観点等を考える活動をととして、それぞれの活動で児童にどのような力を付けたいのかを明確にすることができることを伝える。
- ・児童の学習意欲を高め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、児童の変容を把握し、それぞれの活動が児童にとって適切なものであったかどうかを振り返る評価を、授業ごと、あるいは活動ごとに行うことが大切であることを伝える。

授業における評価の在り方 【展開例】	
研修の流れ	留意点
1. <u>ねらいを確認する</u> 「児童の学習意欲を高め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うためには、1時間の授業の中で児童にどのような変容があったのかを把握することが大切です。この研修では、展開例に示されている本時のねらいや児童の活動をもとに、評価の観点や評価の方法について協議し、授業における評価の在り方について理解を深めます。」 2. <u>評価の観点を確認する</u> 「評価の観点は、『コミュニケーションへの関心・意欲・態度』『外国語への慣れ親しみ』『言語や文化に関する気付き』の3つです。これらは、学習指導要領の目標に示されている『積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること』『外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること』『言語や文化について体験的に理解を深めること』の3つの柱と対応しています。」 3. <u>児童の活動から評価の観点等を考える</u> ①各活動における「評価の観点」を考える 「ワークシート④に示されているそれぞれの活動は、先程示した3つの評価の観点のうち、どの観点到に結び付いていると思いますか。ワークシート④の『評価の観点』の欄に記入しましょう。」 ②各活動における「目指す児童の姿」を考える 「先程考えていただいた評価の観点をもとに、ワークシート④に示されているそれぞれの活動に対する『目指す児童の姿』を考えます。例えば、『CDあるいはALTの発音を聞きながら、机の上に並べる』活動であれば、『CDあるいはALTの発音を聞いて、正確に並べることができている』というように、具体的な『目指す児童の姿』を考え、ワークシート④の『目指す児童の姿』の欄に記入しましょう。」 ③各活動における「評価の方法」を考える 「『外国語活動』における評価の方法の例として、児童の発表や行動の観察、児童との会話をとおした聞き取り、チェック・リスト（発言回数や内容等）を用いた記録、アンケート、『英語ノート』等、児童の記入したものとの点検があります。それぞれの活動において、先程考えていただいた『目指す児童の姿』にどの程度近づいているかを確かめるためには、どのような方法が適していますか。ワークシート④の『評価の方法』の欄に記入しましょう。」	・参加者の「外国語活動」の授業の経験の程度によって、それぞれの評価の観点についてさらに詳しい説明をします。 ・評価の観点と、学習指導要領に示されている3つの柱との関係を図に示しておく、さらに効果的な説明ができます。 ・最初に、各活動の具体的な内容について説明をします。 ・「外国語活動」の授業の経験が少ない教員が多い場合は、グループで考えるようにします。

④考えた内容を発表する

「ワークシート④に記入した内容を発表してください。」

⑤気付いたことを発表する

「各活動における評価について考える活動をとおして、何か気付いたことはありますか。」

4. まとめ

「この研修では、1時間の授業の評価の在り方について考えました。評価の観点等を考える活動をとおして、それぞれの活動で児童にどのような力を付けたいのかを明確にすることができました。児童の学習意欲を高め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、児童の変容を把握し、それぞれの活動が児童にとって適切なものであったかどうかを振り返る評価を、授業ごと、あるいは活動ごとにしっかりと行うことが大切です。」

ワークシート④ ※「本時の目標」、「児童の活動」は『英語ノート2 指導資料』p. 94～p. 95 Lesson6 第2時に示されている展開例をもとにしています。

1. 本時の目標

行きたい国やその理由についてのまとまった話を聞いて、その概要を理解する。

2. 本時の展開 ※「評価の観点」の欄には、①コミュニケーションへの関心・意欲・態度、②外国語への慣れ親しみ、③言語や文化に関する気付きを記入します。

児童の活動	評価の 観点	目指す児童の姿・評価の方法
【Let's Listen 1】 ・巻末にある国の様子絵カードを切り取る。 ・ALTとともに、どんな単語の絵があるかを発音しながら確認する。 ・CDあるいはALTの発音を聞きながら、机の上に並べる。		〈目指す児童の姿〉
		〈評価の方法〉
【Let's Play】 ・絵カードをマスの好きなところに置き、次活動で使用するビンゴ・シートを作成する。 ・作成したビンゴ・シートを使って、ビンゴ・ゲームをする。 ・CDあるいはALTが発音する絵カードをシートから取る。時間内にカードがない縦・横・斜めの列がいくつできたかを答える。		〈目指す児童の姿〉
		〈評価の方法〉
【Let's Listen 2】 ・質問に答える。 ・CDあるいはALTの話聞いて、子どもの顔と、理由、国旗とを線で結ぶ。		〈目指す児童の姿〉
		〈評価の方法〉
・指導者の行きたい国、その理由についての話を聞く。 ・質問に答える。 Yes. No. France. China. America		〈目指す児童の姿〉
		〈評価の方法〉

プログラム2. 授業評価

〈ねらい〉

「外国語活動」における教員の指導力向上のためには、研究授業を実施し、共通の視点を持って相互に評価し合うことが大切です。この研修では、「授業評価シート」を活用した授業の検討をととして、「外国語活動」における授業評価の在り方について参加者の理解を深めます。

〈準備物〉

授業を録画したVTR、「授業評価シート（例）」

※「授業評価シート（例）」に示している項目は、『小学校外国語活動研修ガイドブック』（文部科学省 2008）をもとにした一例です。各学校の実態に合わせて「授業評価シート」の項目を作成しましょう。

概 略	
1	ねらいを確認する
2	「授業評価シート」のねらいを確認する
3	「授業評価シート（例）」を用いながら、VTRを視聴する
4	「授業評価シート（例）」に記入した内容をもとに協議を行う（グループ活動）
5	協議した内容を発表する

プログラム2. 授業評価 【展開例】

研修の流れ	留意点
<u>1. ねらいを確認する</u> 「『外国語活動』における教員の指導力向上のためには、研究授業を実施し、共通の視点を持って相互に評価し合うことが大切です。この研修では、『授業評価シート』を活用した授業の検討をととして、『外国語活動』における授業評価の在り方について理解を深めます。」 <u>2. 「授業評価シート」のねらいを確認する</u> 「『授業評価シート』とは、参観者が授業を参観する際に用いるチェックシートです。このシートを使うことにより、授業を参観する際の視点が明確になります。また、授業研究会においても、このシートを使うことで、授業改善に向け、充実した話し合いが可能になります。」 <u>3. 「授業評価シート」を用いながら、VTRを視聴する</u> 「今から、授業のVTRを見ていただきます。VTRを見ながら気付いたことを先程の『授業評価シート（例）』に記入してください。」	

4. 「授業評価シート（例）」に記入した内容をもとに協議を行う

「グループに分かれて、『授業評価シート（例）』に記入した内容を発表し、自身の授業に生かせそうなことや、授業改善に向けて必要なことについて協議をしていただきます。」

5. 協議した内容を発表する

「グループで協議した内容を発表してください。」

（発表後、進行役が意見を整理する。）

「今回の授業から、（整理した内容）が必要であることがわかりました。これらの事柄を、今後の授業実践に反映していただきたいと思います。」

授業評価シート（例）

年 月 日（ ） 単元名（ ） 授業者（ ） 記録者（ ）

	項目	よい点	改善点
ねらい等	学習指導要領を踏まえて、適切なねらいが設定されていたか。 扱う語彙・表現は適切であったか。 児童の実態に合ったねらいとなっていたか。		
展開・活動	ねらいの達成につながる活動が展開されていたか。 活動の難易度は適切であったか。 児童が意欲的に活動できる楽しい学習であったか。 児童が新たなことに気付くような工夫がなされていたか。 「聞くこと」「話すこと」のコミュニケーション活動がうまく組み合わされていたか。 使用教材は適切であったか。 活動に要した時間は適切であったか。		
評価	全ての児童を観察し、児童を励ましたりほめたりするなど、適切な評価を行っていたか。 評価規準は適切であったか。		
指導者	指導者間の打ち合わせが十分であったか。 指導者間でコミュニケーションを適切に行いながら授業が進められていたか。 説明等は明解で適切なクラスルーム・イングリッシュを使用していたか。 日本語の活用は適切であったか。		
その他			

※「その他」には、各校で重点的に取り組んでいる項目等を記入しましょう。